

「NHKスベシヤル」まで踊らされた  
大阪大学「熊本地震観測データ」捏造事件

# 活断層は危なくない」という 風評だけ残して消えた 熊本地震「地盤リスク」説の罪

地震の揺れは、活断層からの距離よりも地盤の影響が大きい——  
地盤リスクを訴えるNHKスベシヤルが2017年4月に放送されたが、  
その根拠となる熊本地震の観測データは捏造されていた。

明石昇二郎

2016年4月に熊本県をはじめ九州地方を襲った直下型地震「熊本地震」では、まず4月14日にマグニチュード(M)6.5の地震が発生し、その2日後の4月16日未明には、さらに規模の大きいM7.3の地震が発生していた。気象庁や政府の地震調査委員会ではそれまで、大規模地震が発生した後は余震への警戒を呼び掛けてきた。だが、余震の揺れが「本震」を上回ってしまうという前代未聞の事態を受け、今後は「余震」という言葉を使わないよう改め、「同じ程度の地震に注意が必要」などと呼びかけることになった。

観測されていた。これを受け大阪大学(阪大)などの研究チームは、益城町内3カ所にポータブル地震計を設置。地震波の観測を始めた直後の4月16日、最大規模であるM7.3の「本震」が発生し、同研究チームはこの揺れを、置いたばかりのポータブル地震計で捕捉できたとした。地震計のそばで大規模地震が発生し、揺れの観測に成功するのは大変珍しいことで、このデータは阪大・京都大学(京大)と産業技術総合研究所(産総研)との共著で米国の地震学会誌にも掲載され、ひととき注目を集めることとなった。

## 「地盤リスク」は 活断層に勝る脅威か

ところで、益城町内には「布田川断層」という活断層が走っている(13ページの地図参照)。この活断層に沿う地域では、二度の大地震によって甚大な被害を受けていた。家屋の倒壊も、この断層から100メートル以内に集中発生している。

だが「本震」観測データは活断層の危険性を検証するためではなく、なぜか別の目的に活用される。地震の揺れを増幅させる「揺れやすい表層地盤」というものがあって、益城町ではこの表層地盤こそが家屋の倒壊を招いた——とする研究に、こぞって用いられたのである。この研究は「地盤リスク」と名付けられた。

この話に乗ったのがNHKである。熊本地震発生1年後となる17年4月9日放送のNHKスベシヤル(Nスベ)「大地震 あなたの家はどうか?」見えてきた。地

「最新の解析によって浮かび上がった新たな脅威」  
だとして、「地盤リスク」説が大々的に取り上げられる。「本震」観測データを精査したところ、3カ所あるうちの1つで、およそ2倍の強い揺れを観測したところがあり、それをもとにボーリング調査をしたところ、粘土層からなる「揺れやすい表層地盤」が見つかったというのだ。が、そこで問題が発生する。

Nスベの放送後、益城町の家屋倒壊被害は「地盤」が決めたのである。町内を通る活断層の影響など考えなくても説明がつく——とする風評が生まれてしまったのだ。

The screenshot shows a webpage from NHK Special. The main title is "大地震 あなたの家はどうか? ~見えてきた“地盤リスク”~". It features a video player for a program broadcast on April 9, 2017, at 9:00 PM. The page includes a sidebar with navigation links like "社会", "自然", and "科学". There is also a small image of a person's face in the bottom right corner of the page.